

特集
「窯元」

吉右衛門窯
福智窯

— 陶器づくりにかける思い —

絵付中の「吉右衛門窯」窯元 永末修策さん

広報

Houjyou 笑顔が、緑が、自然がキラキラ 方城町

5 2005
MAY
第240号

ほうじょう

土がら器入

手から魂^{いのち}吹き込まれ陶器に変わる瞬間^{とき}



吉右衛門窯 銘「青瓷蓮弁文大鉢」

陶器には、日常食器として使われる物から美術作品として評価される物まで、実にさまざまなものがあります。

方城町の窯元では「豊前吉右衛門窯」「福智窯」が知られていますが、それぞれの窯元が作陶に対して独自の考え方や作風を持っています。

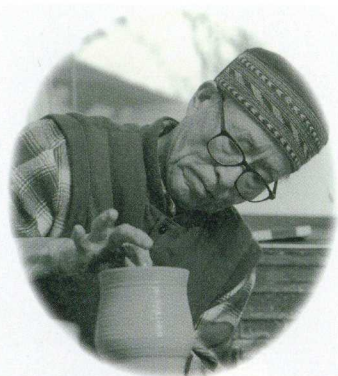


福智窯 銘「焼柿」

吉右衛門窯の始まり

初代吉右衛門(故永末晴美)さんは大正6年に弁城上弁城に生まれ、昭和19年戦地より復員し、親戚にあたる上野焼高鶴本窯の先々代高鶴城山さんの窯へ遊びに行くようになりました。それが陶芸の道に入るきっかけとなりました。

この頃、評論家・陶磁研究家(故)美和弥乃助さんと知り合い強い影響を受け師事。昭和21年京都宇治の朝日焼14代(故)松林豊斎さん(猶香庵)に師事。昭和24年、生家近くに自ら築いた小さな登り窯に入火入れをし、そこから吉右衛門窯は始まりました。



作陶中の初代吉右衛門(晴美)さん

窯名の由来

「豊前」は旧国名、吉右衛門は窯のある場所が吉右衛門谷の入り口に位置することから命名しました。吉右衛門谷には豊前小倉藩主が、また細川公時代(安土桃山時代)の上野系の窯跡があります。

独自の技法「刻染付」

最初は筆で絵付けをしていましたが、昭和30年代半ばから彫を入れて絵を描く独自の刻染付の技法が編み出されました。「刻染付」とは晴美さんが名づけた造語です。文様のモチーフは椿が多く、芙蓉、牡丹、魚特定しない花の花弁など。自宅の庭先でスケッチをしている姿をよく見かけたと言いました。

陶芸への道

修策さんは昭和24年生まれ、父晴美さんは家業を継げとは、あまり言われなかつたが、昭和42年高校卒業の進路を決定する直前になって愛知県立高等窯業専門学校へ行くことを決めた。昭和44年、京都宇治の朝日焼で晴美さんと同じ先生に師事。修策さんは修行当時のことを振り返り「厳しかったですね。お客さんとの接し方から商売の仕方まで教わり、何でもした。」と話してくれました。

メキシコへ渡る

昭和48年メキシコへ、動機は「高校生くらの時からチャンスがあれば海外に出たかった。メキシコに行ったのは、たまたま瀬戸の専門学校時代の先輩がいたので」と、昭和59年10年間に及ぶメキシコ滞在を終え帰国。

二代目の葛藤



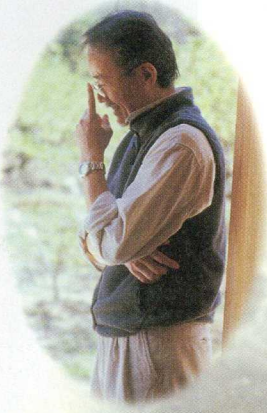
吉右衛門窯 初期の作品(染付)

「帰国後すぐは10年間の空白を取り戻そうと、すごい努力と、また精神的な葛藤が重なって胃を壊したり、周りからは吉右衛門の息子、2代目だからと期待はかけられるしね。」でも結果として、父が築き上げた「吉右衛門」を継いでいくのが一番いいんじゃないかと。でも、父が考案した刻染付をやっているという心境になったのはだいぶ先でしたが「と当時を振り返る。昭和63年に、黒崎・そごうで吉右衛門さんの個展が開催された。これは昭和39年福岡天神岩田屋の個展以来、実に24年ぶりに開かれたもので、かなりの好評を受けたものだった。

これ以降、吉右衛門と二人の子、修策・隆平)による父子展、個展が年2回程度、福岡県その他、東京、広島、高松などで開催される事になる。

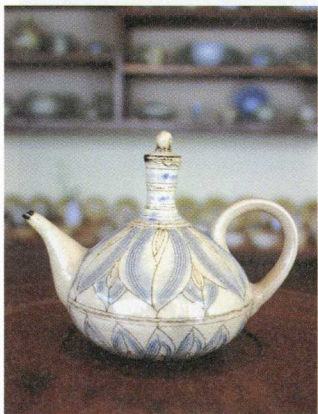
受け継ぐ者・作風・技法

晴美さんは2月15日に87歳で逝去。今は、ご子息の修策さんが2代目として初代の跡を継ぎ作陶活動を続けていきます。技法を伝承していくことについて「同じものはできないんですけど、同じような技法を使ってやっています」と、また、これからの取り組みについて「できれば海外で個展をやりたい。私がメキシコにいた時は個展を開いた事はありません。でも今までに吉右衛門窯が海外で個展を開いたことは無いんですよ。いつの日か「吉右衛門窯」として個展をやりたいと思っています。それが2代目吉右衛門である私の夢ですから」と修策さんは語ってくれました。



永末隆平さん(晴美さんの二男)

※晴美さんの二男隆平さんは岡山県瀬戸内市長船(備前市近く)で備前焼の作家として活躍中。



刻染付花文水瓶

※刻染付(ほりそめつけ)/陶器の素地がまだ半乾きの時、鋭い鉄筆様の道具で文様を刻(ほり)ります。その後、乾燥、素焼きを経て刻られた細い溝状の線に顔料(呉須、鉄など)を入れ、その後彩色したものを、
※染付(絵付け)/呉須を用いて彩色、絵付けされたものを言いますが、当窯では、呉須を中心に鉄も含め、刻染付以外の筆で彩色されたものを称しています。



作陶中の「福智窯」二代目窯元 鈴木啓三さん

福智窯の始まり

昭和53年丹城岩留に、鈴木岬さん大正15年生まれ78歳、啓三さん昭和29年生まれ50歳の父子が「福智窯」を開窯してから今年で28年目を迎えます。現在の窯元、啓三さんは24歳から作陶生活に入った。開窯当初は、島根県浜田からやって来ていた口口職人と一緒に試行錯誤の中で作陶生活が始まりました。

窯名へのこだわり

啓三さんは「かじこまって使うものではなくて、日常生活で使い勝手のいい道具を作りたいです」「名前にこだわるか作り手にこだわるか。焼き物の名前は聞いたことがあっても、作り手の顔までは覚えてこない。人それぞれに違いますからね。また、作り手の顔が見える陶器づくりを心がけ、窯名を紹介する時はあえて「田川方城福智窯」と呼ぶ。「田川郡の方城町にある窯だ」と知ってもらいたいから」と話す。



茶香炉



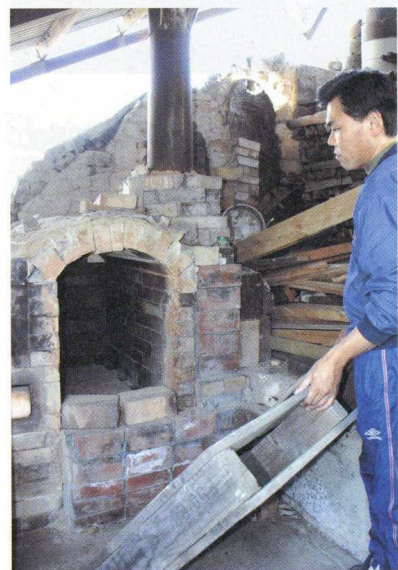
独自性のある作風

啓三さんは、これまで誰かに師事することは、あえてせず独自性を大切にしたい作風を編み出してきました。福智窯には現在5人の陶芸家(道具づくり)がいます。7年前からは福岡県内ほか大阪、東京で開かれる陶磁器のイベントへ参加を始め展示販売をするようになりました。最近展示会に出品すると、見たお客さんから「福智窯らしい作品ね」と言われることが増えてきたという。

これについて「陶器の面(おもて)に、作り手の顔っていうのか、うちの色が出始めてきたんでしょかね。窯名を出してない場合でも作品を手にとっただけで「やっぱり福智窯だった」と分かってもらえる。こんな時は嬉しいし、一番の励みになるんですよ」と笑顔がこぼれた。

新しい陶器づくりへの挑戦

取材中に啓三さんが「柿」をモチーフにした急須と湯飲み作品を見せてくれた。急須の蓋と湯飲みの底が柿のへたになっていて姿形も「柿」そのもの、色も柿色をしている斬新でユニークなものです。その反面湯切れが良い角度で首を付けるなど、ちゃんと道具としての機能性も備えてあります。



窯元が手作りした窯です。



柿をモチーフにした作品



初代窯元 鈴木 岬さん(前列左)、啓三さん(後列右)と福智窯のみなさん

「これからも身近なものをモチーフに実用性と遊び心が一緒になった日常生活でも使える道具(食器)を作っていきたい。もっと多くの人達に福智窯の陶器を広げていきたい」と作陶への抱負を語ってくれました。

7. 職員手当の状況

[1] 期末・勤勉手当の支給状況

(平成16年度支給割合)

区分	期末手当(月)	勤勉手当(月)	計(月)	国
6月期	1.40	0.70	2.10	同左
12月期	1.60	0.70	2.30	
計	3.00	1.40	4.40	

職務の級による加算措置有り。

[2] 退職手当率

区分	自己都合(月)	勸奨・定年(月)	国
勤続20年	21.00	28.0875	同左
勤続25年	33.75	43.335	
勤続35年	47.50	60.99	
最高限度額	60.00	60.99	

[3] 時間外手当

年度	区分	金額(千円)
14	支給総額	19,196
	職員1人当たり支給年額	152
15	支給総額	26,161
	職員1人当たり支給年額	207

[4] その他手当

(平成16年4月1日現在)

扶養手当	配偶者13,500円、扶養親族(2人まで)6,000円(扶養親族でない配偶者がある場合は、1人について6,500円)、配偶者がいない場合は、1人について11,000円、その他の扶養親族については、1人について5,000円、16歳から22歳までの子がいる場合は1人につき5,000円加算
住宅手当	●新築・購入者は5年間2,500円 ●住居を借り受け月額12,000円を超える家賃を支払っている者に対し、その家賃の額に応じ、27,000円を限度に支給。
通勤手当	通勤のために交通機関を利用している職員(支給限度額55,000円)、または、自動車などで通勤している職員(片道2km以上)

1. 人件費の推移

(各年度末3月31日現在)

年度	区分	人口(人)	歳出額 A(千円)	実質収支(千円)	人件費 B(千円)	人件費率 B/A(%)
平成13年度		7,865	8,840,093	91,499	1,055,588	11.9
平成14年度		7,906	7,110,780	118,812	1,007,587	14.2
平成15年度		7,836	5,994,008	142,229	999,118	16.7

(1) この表は、人件費が町財政に占める割合を表したものです。

(2) 人件費には、町長などの特別職、一般職の給料、町議会議員ほか各種委員等に支給される報酬などを含めています。

2. 職員給与費の状況

職員数 A(人)	給与費(千円)				1人当たりの給与費 B/A(千円)
	給料	職員手当	期末・勤勉手当	合計 B	
108	472,972	47,398	183,667	704,037	6,519

(1) この表は、平成16年度当初予算(一般会計)に計上された額です。

(2) 職員手当には、退職手当を含みません。

3. 職員の平均給料月額及び平均年齢

(平成16年4月1日現在)

一般行政職			技能労務職		
平均給料月額(円)	平均給与月額(円)	平均年齢	平均給料月額(円)	平均給与月額(円)	平均年齢
331,467	353,487	45.4	254,444	262,944	45.6

(1) 一般行政職とは、技能労務職・税務職・福祉職・医療職及び水道課職員を除く職員です。

(2) 平均給与月額には、期末・勤勉手当を含みません。

方城町職員の給与等を公表します

8. 給与水準の状況

方城町の給与水準を国と比較する方法として、ラスパイレス指数による方法があります。

ラスパイレス指数とは、職員構成を同一にして、職種別や学歴別、経験年数別に区分した職員数と平均給料月額を用いて算出するもので、国を100とした場合、平成16年4月1日現在の方城町のラスパイレス指数は、87.9(福岡県94市町村中92番目)となっております。

9. 特別職の報酬等の状況 (平成16年4月1日現在)

区分	月額	期末手当
町長	780,000円	6月期 1.40月 12月期 1.60月 計 3.00月 (加算額有り)
助役	618,000円	
収入役	580,000円	
教育長	530,000円	
議長	295,000円	
副議長	255,000円	
議員	237,000円	

10. 部門別職員数の状況

区分	職員数(人)		増減数(人)	
	15年度	16年度		
部門				
一般行政	議会	2	2	
	総務	21	26	▲5
	税務	7	7	
	民生	33	32	▲1
	衛生	11	11	
	労働	3	2	▲1
	農水	8	4	▲4
	商工	0	0	
	土木	8	10	▲2
	小計	93	94	▲1
特別行政	教育	14	16	▲2
公営企業等会計	病院	18	16	▲2
	水道	6	6	
	その他	5	3	▲2
小計	29	25	▲4	
合計	136	135	▲1	

4. 職員の初任給の状況

(平成16年4月1日現在)

区分	方城町		国		
	初任給(円)	採用2年経過後の給料月額	初任給(円)	採用2年経過後の給料月額	
一般行政職	大学卒	170,700	184,400	I種 179,800 II種 170,700	I種 198,600 II種 184,400
	高校卒	138,800	148,500	138,800	148,500
技能労務職	高校卒	136,000	145,500	136,000	145,500

5. 職員の経験年数及び学歴平均給料月額

(平成16年4月1日現在)

区分	10年以上15年未満(円)	15年以上20年未満(円)	20年以上25年未満(円)	
一般行政職	大学卒	269,300	301,300	328,500
	高校卒	215,050	277,400	302,133
技能労務職	高校卒	177,700	219,900	256,400

経験年数とは、採用後の年数をいい、採用前に職歴等のある場合にはその期間を換算し、採用後の年数に加算します。

6. 一般行政職の級別職員数の状況

(平成16年4月1日現在)

区分	1級	2級	3級	4級	5級	6級	7級	8級	計
標準的な職務内容	主事	主事	主事	主査	課長補佐 係長・主査	課長補佐 係長	課長	課長	
職員数(人)	0	12	6	8	16	19	11	3	75
構成比(%)	0	16	8	11	21	25	15	4	100

この表は、方城町の給与条例に基づく給料表の級区分による一般行政職の現員数を示すものです。